



tasar

Japan Tasar Assosication
<http://www.tasarjapan.org/>

93

Tasar News Letter
Vol.93
April 2013



CONTENTS

Contents.....	2
Tasar World Championships 2011	2
JTA2011 年度活動報告	8
Tasar Sailor of the Year	9
2011 年度 レースレポート集.....	10
2011 年度 レース成績一覧.....	(巻末添付)

TASAR WORLD CHAMPIONSHIPS 2011

2011年9月16日～9月23日に、イギリス Torbay の Royal Torbay Yacht Club で Tasar World Championships 2011 が開催され、日本からは8チームが参加しました。

本レガッタは、レース日程5日間に12レースを消化するスケジュールで開催されました。レガッタ期間中は、風速5～15メートルの風がコンスタントに吹き、トータルで力のあるチームに上位に名を連ねました。初優勝を飾ったオーストラリアの Paul & Bronwyn Ridgway 夫妻は、レガッタ中トップフィニッシュなしで、平均3.2ポイントという非常に完成度の高いレース展開で勝利。前回の和歌山ワールドで優勝した Robert & Nicole Douglass 親娘 (AUS) は、前半日程にトップを保ち、またトップフィニッシュを通算3回していたにも関わらず、Ridgway 夫妻に及ばず2位に終わりました。総合3位となった Malcolm & Fiona Davies 夫妻 (GBR) が、大会2日目の振れ回る風の中、他の上位チームに浮き沈みのあった3レースともトップフィニッシュを飾ったのが非常に印象的でした。また、上位3チームがマ

スタークラス・グランドマスタークラス・オープンクラスという3クラスの男女チームであることが、テザークラス愛好者が幅広い層に支持されていること。またその中でもハイレベルなレースが展開されているという特徴があらわれました。

日本人チームは、前回和歌山ワールドで3位だった佐藤・村岸組が、最終レースで粘りのトップフィニッシュを飾り5位入賞。山村・池田組は初の海外遠征の初日にディスマストでリタイアをしつつも、5レースをシングルで固めて平均10ポイントと健闘しました。

◎日本チーム成績

- 5. JPN2862 佐藤 / 村岸 69p
- 12. JPN2736 山村 / 池田 100p
- 33. JPN2712 下村 / 河野 276p
- 39. JPN2396 山本 / 山崎 343p
- 40. JPN2745 渡辺 / 関口 364p
- 42. JPN2593 亀山 / 井上 391p
- 54. JPN2808 石川 / 細田 DNC
- 55. JPN2765 田中 / 田中 DNC

まずはじめに、今回の大会に携われた多くの関係者の方に感謝の意を表明したいと思います。

レースコミッティ、JURY、RTYC（ロイヤルトーペイヨットクラブ）、日本テザー協会、各フリートの皆様、ありがとうございました。ご尽力された方々のおかげでこのワールドという大会が成り立っていることを、参加してあらためて痛感しております。

今大会ですが、全体を通してのコンディションとしては、強風域（ $8 \sim 14 \text{ m/s}$ ）でのレースが6レース、順風域（ $5 \sim 8 \text{ m/s}$ ）でのレースが4レース、軽風域（ $3 \sim 5 \text{ m/s}$ ）でのレースが2レースという結果でした。（あくまで私の感覚での数値になりますが。）和歌山の12レースにくらべると強風域のレースが比較的多い大会となったと感じています。風向は全レース $240^\circ \sim 290^\circ$ くらいと南西、西、北西の風で、ブローに強弱があり、足の速い風でした。（展開が早い）非常にシフティで、ブローの足が速く、巧みなコース選択、レース展開が必要であったといえます。潮に関しては、特に意識したのは、最終日の軽風での1レースくらいでした。

我々のチーム2862は、初日3レースの強風コンディション（ $\text{Ave } 10 \text{ m/s}$ ）で、BFD-27-5（28位）と大きく出遅れました。

第1レースは、出艇してしばらくの間にジブカム

が飛ぶアクシデントに遭遇し、スタートに間に合うものの、冷静さを欠きBFD。第2レースはサイドマーク回航してすぐに沈してしまい、初日の2レースで大きく出遅れました。練習日が軽風だったこともあり、体が強風になれていないこと、事前準備など、色々要因はあったと思います。準備は進めていたつもりでしたが、結果的には不足しており、艇の知識、ワールドに合わせたステイ類の交換など、更なる計画性を持った準備必要であると感じています。メンタル的には、最初のレースですでに2カットを使っただけで、吹っ切れた感じはありませんでした。

3レース目以降では、いかにミスせず地道に準備を上げるかのみに関心を切り替えました。強風域のレースが多かったこともあり、競合チームと走り比べる中で色々な発見がありました。強風の風上風域においては（ただし 10 m/s オーバー）、セッティングでは通常よりピンをダウンすること。その際の、テンションをどれくらいにすべきか、また、メインセールのトラベラーシーティングとメインシーティングの使い分け、ハーフバングの使い方など色々な発見がありました。風下風域においては、乗艇位置、ラフベアのコース取り・タイミング、レバーの使い方などです。

我々のチームが知らなかったこと、気づいていなかったことがまだまだあり、発見・吸収しながらレースを消化していきました。



2日目は順風～軽風という感じで日本人向きの展開になりました。7-4-8とそこそこ纏めました。5位以内に入っているチームは、スタートから飛び出し、最初のシフトを生かしきれたチームです。特にGBR2683の2日目の3レースをすべてトップフィニッシュしています。艇速が良いのと、有利なエンドにある程度深く入っていくコース選択をしています。(ちょっとリスキーに見えましたが。)

第6レースの8位は成績こそぱっとしませんが、徐々に順位を上げる非常に良い展開で、粘り強い走りができたと感じました。(3日目につながるレースとなった。)

3日目は、午前中は強風のため、風が落ちるのを待って(あまり落ちていませんが)、午後からの出艇で3レース消化。朝から、サバイバルな強風が吹き荒れていました。結果は、20-2-4。20位はスタート時に、下で混戦に揉まれトラブリ、沈と720°回転プラス、360°回転でスタート。20位まで上げるのが精いっぱいでした。その後は、冷静にレースを展開して、2位と4位でこの日を終わりました。10m/s位の風でしたが、他の艇に比べてスピードは悪くなく、海外の選手よりクルーウェイトが10~15kg程度少ないですが、十分に走れました。

レイデイ明けの4日目は順風域で2レースやって、4-14。14位はスタート時にゼネリコ旗を見て戻ってしまったことが悪かった要因です。実際、本部船は、ゼネリコ旗の後、リコール旗に旗を上げ直していました。救済するも通らずでした(ここで詳しく話しませんが)。

5日目は、軽風域で1レースやって、1位で最終レースでようやく1位を取ることができました。下有利のスタートでスタート時の即タックに成功し、1上からトップを守りました。スピードも十分ありました。

以上のような12レース結果になりました。

トラブルのないレースはすべてシングルでしたが、トラブルが多く、安定して良い成績で纏めることができませんでした。今後安定させるために何をすべきかが考えることが多そうです。

イギリスに向けて課題と感じていた、強風でのクローズの走り、フリーのスピードは、まだまだ発展

途上ですが、ある程度通用したと感じています。課題がわかってきたので、さらに色々研究していけそうです。ただし、優勝争いをするためには、まだまだ足りないものが多く、もう一段のレベルアップが必要です。苦手な風域・レグの克服、安定感、カットレースの使い方、などです。

トップ2艇は4日目の2レースは、スタート時からマッチレースをしていました。AUS2871がAUS2848を少し上回っていたように感じました。

我々は初日で2カット使ってしまい、後半のミスのリカバリーできなかつたのが、成績が纏まらなかつた要因でしょうか。

それから、今回2度目の参加になりますが、AUSチームのメンバと懇親を深めることができました。特に、ダグラス親子チーム、マクフィーチーム、バースがたまたま隣で最年少ヘルムを取った、augus親子(息子がヘルムで420AUSチャンピオン)など。その他にも色々なチームと仲良くなりました。またチャンスがあれば参加してみたいものです。

それから、日本チームですが、2736の山村/池田チームが練習の時から良い走りをしていました。今回の結果は本人達からすれば不満足な結果だと思いません。特にフリーの走りはAUSのトップチームと比較しても十分なスピードがあったように感じました。(実際、フリーで順位を上げてきます。)

他の日本チームの方にも色々お世話になりました。特にコンテナ関連を纏めて頂いた亀山さんや稲毛チーム、英語の面で協力頂いた、石川さんや山崎さんの奥様、部品を融通し合ったり、おにぎりを作って頂いたり、レイデイを満喫したり、本当に良い日本チームだったと思います。ありがとうございました。

最後になりましたが、本大会に関係されたすべての皆様に感謝したいと思います。ありがとうございました。



ワールド練習会の総括

稲毛フリート 田中郁也

昨年は関東、関西のそれぞれで2回の練習会が行われました。今年に入ってから、真冬の1月にルール講習会と合わせて、2月にはミッドウィンターレガッタと合わせて行われ、また、震災の影響でスタートが遅れましたが、6月からはセーリングレベルアップとしてシリーズで3回の練習会を行いました。イベント担当理事の久礼さんによるマネジメントと、各フリートによる内容の企画、運営ボートや機材等の手配などの準備により、これだけの練習会をこなすことができました。

これだけの回数をフリート横断で行ったのは初めてだと思います。各フリートにおいては、フリートレースはメンバーが集まるよい機会になっていると思いますが、協会の活動でも同じで、集まってテザーに乗る、これが基本だと思いますが、そういう意味でレガッタを補うイベントとして集まるよい機会になったのではないのでしょうか。特に後半は、ワールドエントリーの山村・池田組、下村・河野組、渡辺・関口組、稲毛の軽部夫妻組など、元気なチームが毎回参加し、シリーズで開催した甲斐がありました。

練習会のメニューや運営については、試行錯誤のところもありましたので、時間を有効に使えたか、コンディションの変化への対応、集まったセーラーのレベル、ニーズにマッチしたものだったか、ミーティングの進め方、内容など、まだまだ改善の余地はあると思います。しかし、今回得られたノウハウもありますので、今後活かしていければと思います。

セーリングレベルアップは3回のシリーズでセーリング練習を中心に行いました。いずれも風に恵まれ、練習後に固定メンバーによる十分な話し合いができたことから、各チームの走らせ方を理解し、その上でメインセールトリムの方法、ジブセールのセッティングなどについて共通のポイントを見出すことができました。普段の練習では、ここまでじっくり話すことはしてこなかったこともあり、各艇それぞれのやり方というところで終わっていたところを、掘り下げることができたのは、この試みの大

きな成果であったと思います。参加メンバーが、自艇の走らせ方を率直に言いあった結果です。

今後の課題を一つ上げておきたいと思います。今回のシリーズ、ミーティングでは、クルーの方々にもコメントを求めました。しかし、クルーワークでの掘り下げには至らなかったと思います。また、レース中のコース取り、ダウンウィンドの走らせ方など、学ぶべき点、レベルアップすべき点はまだまだあります。今回のワールドで日本チームは多くのことを吸収するでしょうし、今後はコーチ陣の充実も図って、これらの課題をテーマにした練習会を開催できたらいいなと思っています。

以下は、今年のはじめに練習会の運営について考えた、感想レベルのメモです。将来の練習会が、より充実したものとなるよう、是非ご意見などをいただきたいと思いますので、参考に掲載させていただきます。また、セーリングレベルアップの各回で準備したメモも共有のため、掲載させていただきます。

【練習会の運営についてのメモ】

- ・ 1日はレース形式、1日はテーマを持った練習メニューの2日構成が望ましい。
- ・ 公式レガッタと合わせると参加が多い。
- ・ 同じ内容を行う場合でも、ホストフリートの負担感は違う。練習会の企画や当日の仕切りが大変か？
- ・ 練習会と練習会の間隔が詰まると、“疲労感”を感じる（私だけ？）
- ・ 艇が集まる機会であり、スタート練習やレース練習は有効。
- ・ 練習会毎のテーマ設定（ねらいを事前に示す）とシリーズ性を持たせることが課題。
- ・ コーチ役がいることがのぞましい。

- ・ これまでどおり2日間のイベントとして企画。
1日はレース形式としてフリートレースの機会を活用。できるだけスタート練習を併せて実施。
- ・ ホストはローテーションにこだわらず、ホストできるフリートが行う。
- ・ 練習会と練習会との間は4週間以上は空ける。
- ・ 今シーズンのテーマとして、“艇のチューンアップとセーリングのレベルアップ”を設定。3月以降3回の練習をあてる。参加艇はセッティング情報を相互に提供する。ビデオ撮影とミーティングでの討議をもとに自艇のチューンアップとセーリングのレベルアップを図る。
- ・ 練習会の企画とミーティングの運営は協会がサポート。

- ・ セールトリム（ジブ、メイン）：セールの深さ、強弱への対応
- ・ トラベラーの位置：センターラインに寄せる、寄せるのをあきらめる
- ・ コントロールライン（バング、カニンガム、アウトホール、ジブタック）

練習の目標

- ・ セーリング練習の基本を実践
- ・ 自艇と他艇の違いを見つける
- ・ セーリング体力をつける（1レグ15分を目標、特にハイクアウト）
- ・ ミーティングを通じ、改善すべき点を見つける

【セーリングレベルアップ第1回（クローズを中心に）】

セーリング練習の基本を確認

- ・ 2010年江ノ島練習会資料を参照
- ・ どうやって走らせたの？と聞かれたときに、セッティング、セールコントロールの方法を答えられるように→相手艇との違いを知る→比較して改善方法を探す

セッティングの基礎

- ・ センター、ラダーのガタ
- ・ マストレーキ（全体長）：自艇は4100mm？
- ・ リグのテンション：チーム内で硬さ（陸上）は何番目？、クローズでサイドステーの位置は何番目を使った？
- ・ ダイヤモンドリグの張り具合：チーム内で何番目？

セールコントロールの基礎

【セーリングレベルアップ第2回（ダウンウィンドを中心に）】

セッティングのポイント

- ・ マストレーキ（全体長、後傾 or 中立？）
- ・ リグのテンション（タイト or ルーズ）と下りでのサイドステーの位置（ジブの深さを回復（ジブを飛ばす））
- ・ マストのローテーション（中間 or オーバー、ランニングでは解放？）
- ・ センターボードの揚げ具合
- ・ ジブリーダーの位置

セールコントロールのポイント

- ・ メインセールの深さ（ローテーション、カニンガム、アウトホール）
- ・ ジブセールの深さ（トリム、リーダーの位置）
- ・ リーチの調整（トリム、バング）

乗艇位置のポイント

- ・ 前後移動の目安
- ・ ヒールコントロールの目安（許容範囲（例）トランサムに着水、ランニングのアンヒール）

走らせ方のポイント

- ・ 速い艇は、トップスピードが速いのではなく、速く走っている時間が長い（波の利用、パフ・ラルへの対処、つなぎ）
→遅い時間を減らす（船の向き、前後位置、セールのオーバートリムに注意）
- ・ 一番難しいのは緩い角度のフリー（ジブが効かない）
→ジブが効く角度とベアのつなぎで克服
- ・ プレーニングに入るきっかけをつくる
→波へのあて方、セールのパンプ、ベア

【セーリングレベルアップ第3回（レース中のセーリング）】

レース中に相手艇に競り負けない走らせ方のポイントを知る。

クローズ

- ・ 高さを保ち、航跡上に簡単に落ちない（特にスタート直後、マークへのアプローチライン）
- ・ 下側にフリーウォーターをかせぐか
- ・ フリーウォーターは貯金みたいなもの（ヘッダーへの備え、スピード回復のためのスペース）
- ・ 下艇においていかれない（高さを頭の出具合）
- ・ 下艇の影響範囲を知る

フリー

- ・ 上艇のブランケットの方向と長さを知る
- ・ 航跡上を走るとはロスがあるか？（ピッチングをもたらす小さな波が消える？、曳き波を利用することが可能か？など）
- ・ マーク廻航での加速と、素早く効率的なリグやセールセット

ランニング

- ・ 少し軸を外せば、ブランケットは外すことができる
- ・ サーフィングのチャンスを逃さない（一乗りで差をかせぐ）

練習方法

- ・ 下先行で、上下間隔をいつもより多少詰めてセーリング練習を行う
- ・ セーリングスタート時のポジション（上下、先行・後続）を入れ替えるなど

理事会活動報告

一般活動

渉外(国内/国外)、広報活動(情報公開/普及)、イベント管理、クラスルール管理(計測)、会計管理、会員管理などを実施しました。

特別プロジェクト

特別プロジェクトとして、以下の活動を実施しました。

- ・ 強化練習会の開催
- ・ 日本テザー協会規約改正案の作成
- ・ 会員名簿管理システムの完成

公式イベント

2011 年度は、次の公式イベントを実施しました。

- ・ スプリングレガッタ (開催地：葉山 / 日程：2011 年 4 月 30-5 月 1 日 / 17 艇)
- ・ 西日本選手権 (開催地：芦屋 / 日程：2011 年 7 月 10 日 / 14 艇)
- ・ ミッドサマーレガッタ (開催地：猪苗代 / 日程：2011 年 8 月 / 震災の影響により中止)
- ・ オータムレガッタ (開催地：江ノ島 / 日程：2011 年 10 月 2 日 / 15 艇)
- ・ 和歌山ワールドメモリアルレガッタ (開催地：和歌山 / 日程：2011 年 10 月 29-30 日 / 8 艇)
- ・ 全日本選手権 (開催地：葉山 / 日程：2011 年 11 月 19-20 日 / 30 艇)
- ・ ミッドウィンターレガッタ (開催地：稲毛 / 日程：2012 年 2 月 19 日 / 15 艇)
- ・ 強化練習会
 - ・ 第 1 回関東合同練習会 (開催地：稲毛 / 日程：2011 年 3 月 26-27 日 / 震災の影響により中止)
 - ・ 第 2 回関東合同練習会 (開催地：稲毛 / 日程：2011 年 6 月 4-5 日 / 6 艇)
 - ・ 第 3 回関東合同練習会 (開催地：江ノ島 / 日程：2011 年 6 月 25-26 日 / 6 艇)
 - ・ 第 4 回関東合同練習会 (開催地：稲毛 / 日程：2011 年 7 月 16-17 日 / 7 艇)
- ・ その他
 - ・ JSAF ルール講習会、JTA 新年会 (開催地：葉山 / 日程：2011 年 1 月 22 日 / 約 20 名)
 - ・ テザー級世界選手権 (開催地：トーベイ (イギリス) / 日程：2011 年 9 月 16-23 日)

参加定数：56 艇、日本チーム：8 艇エントリー

スプリングレガッタ

フォグホーンとともに、大会本部に掲揚される N・A 旗。4 月 30、5 月 1 日に実施されたテザー級スプリングレガッタが、2 日目のレースを実施することなく終了した。(文・写真/日本テザー協会)

大会初日、南西風が吹きあがる予想で実施された第 1 レースで、第 1 上マークをトップ回航したのは、強風に強い野島・石井組(葉山)。トップグループがサイドマークを回航して、ほどなく笛の音が鳴り響いた。5 位につけていた佐藤・村岸組(江の島)がパンピングによる反則を取られたのだ。その後、山村・池田組(稲毛)がトップに躍り出てフィニッシュ。前回ミッドウィンターからの 2 連覇を狙う。

やや風が上がった第 2 レースは、佐藤・村岸組がトップフィニッシュ。2 位には浜名湖の石塚・白岩組が入った。第 1 レーストップの山村・池田組は 3 位で、佐藤・村岸組に対して 2 点のアドバンテージを持って、シリーズ暫定トップを維持。

うねりが大きくなり、南の海域ではかなりの風が入ったという情報から、第 3 レースを長いコースで実施。スタート時点では 10 メートル程度だった風速も、スタート後どんどん強まり、第 1 上マーク付近ではディスマストする艇もでてきた。



大会初日は風が吹き上がりノーレースに。艇のトラブルで救助される参加艇もあった

トップ艇が第 3 上マークを回航した頃、「風速 25 ノット(約 13 メートル)以上の突風が 30 秒以上続いた時は、レースを中止しなければならない」というクラス規則に従い、N 旗が掲揚された。陸上で風速 17 メートルを記録し、その後は参加艇のレスキュー活動がおこなわれたが、多少の艇の損傷はあるものの、人的被害はなく全員が帰港した。

夕方、最高齢 85 歳での参加者。安原実朗氏の乾杯の音頭で開始したレセプションパーティでは、恒例の「テザーセーラーオブザイヤー(2010 年度)」が、池田(稲毛)に与えられ、表彰が行われた。この賞は、1 年間の各レガッタの成績はもちろん、レガッタ運営への貢献、遠征参加によるポイントなども加えて決定するもので、成績にとどまらない、日本のテザー界にとっての MVP 賞といえる賞だ。

2 日目早朝。艀装品やセールが壊れたチームには、テザーの国内販売店であるパフォーマンスセイルクラフトジャパンにより、必要なパーツがデリバリーされ各艇準備は整った。しかし、昨夜より続く強風は収まらず、むしろ転潮時間近づくにつれ強まる。やがて、レガッタの終了を告げる N・A 旗が掲揚され、山村・池田組の優勝が確定し、逆転を期する佐藤・村岸組は唇をかんだ。



優勝の山村(左)・池田組。テザーセーラーオブザイヤーをも手にした池田選手は、習わしとなるカップで乾杯

本大会を主催した日本テザー協会では、東日本大震災を受け、大会の延期・中止を検討した。検討当時は、自粛ムードのピーク。余震も頻繁に起こる状況だ。そんななか、さいわいにして被害にあわなかった我々は、いつもの通りレガッタを開催し、被害にあわれたセーラーにとって、“いつか戻る場所”を維持することが、ひとつの使命だろうと考え、いつものとおり開催することを決定した。

しかし、余震も続く中、いつもどおりというわけにはいかない。通常は「通信の禁止」を規定とするが、今回は適用せず。緊急地震速報などを得られる携帯電話の所持を、むしろ推奨した。さらに、レースエリアどこからでも見える、大漁旗サイズのピンク旗を用意。レース中掲揚されたら、レース中止・即帰港。メインセールのクリューだけ外したら、解装せずに、避難経路に沿って裏山へすぐに避難。そこで帰着申告するルールとした。日本テザー協会会長は、レースへの参加を取りやめ、「万一の地震および津波警報発生の際の指示」のため本部船に乗り込んだ。

考えのおよぶ範囲の対策を施し実施した本大会。開催に至ったことについて、大村 JSAF ルール委員会副委員長から賛辞の言葉を頂戴した。日本テザー協会では今後も安全に細心新の注意を払いながら、テザーのイベント、レガッタを続けていくつもりだ。

東日本大震災の被害にあわれ方々へ心からお見舞い申し上げます。日本テザー協会は、被害にあわれたセーラーの方々が、セーリングに戻る気持ち、戻れる状況になったときに、いつでもお迎えできる環境を維持してまいります。

西日本選手権

7月10日、兵庫県海洋体育館にて第22回テザー一級西日本選手権が開催されました。今年は早い梅雨明けで、厳しい暑さの中での大会となりました。
(写真・レポート/日本テザー協会)

本年度のテザー公式戦第2戦は、関東から1艇、浜名湖から1艇、関西から12艇の計14艇が集まり

ました。風は230~210の軽風でフラットな海面。潮の影響もある中、各所で接戦が繰り広げられました。

第1レースは南西3~4mの中で、スタートし右海面に向かう艇が大半の中、大阪北港の2719(石川・泉)が1上から終始トップを守り、1着でフィニッシュ。2下回航後、2位で追う2867(河野・秋吉)は左海面、3位の2866(渡辺・関口)は右海面を選択し、フィニッシュ直前には2艇の差が僅差となりましたが、2867(河野・秋吉)が逃げ切り2着。2866(渡辺・関口)が3着となりました。

第2レースは稲毛から遠征の2736(山村・池田)が1上トップ回航、そのまま後続艇を引き離しトップフィニッシュ。2着は地元芦屋の2705(植田・抜井)、3着は2867(河野・秋吉)、続いて第1レーストップフィニッシュの2719(石川・泉)が4着となり、上位が混戦の様相を呈してきました。

最終の第3レースは徐々に左に振れ、南南西5mの下有利のラインでスタートしました。スタート後に艇団は右海面と左海面に分かれ、1上から1下まで2861(吉田・岸本)がトップ回航、その後2736(山村・池田)が奪還してからは、危なげのないレース運びでトップフィニッシュ。

2着には2866(渡辺・関口)が入り、3着は左海面の接戦を2867(河野・秋吉)が2705(植田・抜井)と2719(石川・泉)を抑えてフィニッシュし、この3着争いの間に右海面からアプローチの2555(小澤・岡本)が4着でフィニッシュしましたが、最後までリコール旗が下りなかったこともあり、各艇は心穏やかならずの帰着となりました。

総合成績は2・3・3の計8点と安定した順位で、大阪北港の河野・秋吉組が優勝。第2位は8・1・1の10点と追いつけた山村・池田組。第3位は1・4・5の10点(3位同点をタイブレイク)で石川・泉組となりました。

表彰式の最後には、9月にイギリスで開催される世界選手権に参加する選手へ応援の拍手を送り、暑い暑い戦いが終わりました。次の公式戦は、8月に猪苗代湖で行われるミッドサマーレガッタです。



梅雨明けの猛暑の中行われたテザー西日本選手権。全員集合！

オータムレガッタ

前線の南下により、すっぱりと冷たい空気に包まれた日本列島。関東でも夏日から一気に秋へと季節が進んだ10月2日。気候にぴったりなネーミングの「オータムレガッタ」が、神奈川県江の島ヨットハーバーで開催されました。（レポート・写真／日本テザー協会）

震災以降、レガッタごとの参加艇数が伸び悩んでいるテザークラス。さらに今回は、「前週イギリスでワールドが行われたばかり」というアゲンストなタイミング。ワールド参加艇のボートは、コンテナに詰められ貨物船の中。選手も、ほんの数日前に帰国し、まだ時差ぼけの名残を感じる頃。にもかかわらず！ワールド参加者3名が参加。どこまでスキモノなんでしょう？

そのほか、大阪北港から2チーム、浜名湖から1チーム、関東圏では、葉山、稲毛から合計9艇がカートップで遠征。全15艇の参加で開催されました。

このレガッタは、神奈川県セーリング連盟が定期的で開催している「江の島トレーニングレース」の1クラスという位置づけで実施することで、江の島のテザーセーラーも海上運営にまわることなく、みなに参加できるスタイルをとっています。毎回、快くテザークラスを設置し、運営してくださる神奈川県セーリング連盟の皆様には、感謝の念が耐えません。

レース海面のコンディションは、一言で言えば「フレフレ、ムラムラ」。局地的に風向が変わり、強弱がある軽風コンディション。レースごとのコースチェンジを毎回行い、レース中のコースチェンジも行うものの、なかなか風軸にあった綺麗なコースを作れない、運営泣かせのコンディションでした。

4レースのうち、第1、第2レースを連続してトップフィニッシュしたのは、大阪北港から遠征してきた石川・石場組でした。第1レースのスタートでは、直前に振れた風の影響で、本部艇の風上に追いやられ2線スタート。にも関わらず、ムラのあるコンディションの中で上手くスピードをキープして、第1上マークまでにトップに躍り出ました。第3レースで8位と叩いたものの、総合3位に入賞。

「1レース目が6位だったので、連覇はその時点で諦めた」というのは、昨年の覇者、石塚・白岩組（浜名湖）。とはいえ素直に諦めるチームではもちろんなく、残りのレースを3-1-3でフィニッシュし、石川・石場組に対して最小得点差で総合2位に入賞しました。

ワールド参加組がない「鬼のいぬ間」の勝利をものにしたのは、ハナから「強豪チームがない今回はチャンス」と狙っていた軽部夫妻組でした。2-2-3-1の安定した順位は、軽風スペシャリストに相応しい結果でしょう。



優勝の軽部夫妻

レース後は、コロケ、スナック等をつつきながらの懇親会。レース海面をファイヤーモスでうろちよろしていた佐藤と、パーティにあわせて姿を見せた村岸の「イギリスワールド5位入賞ペア」も加わ

り、ワールドでの写真やビデオを上映しながら、イギリスワールドの土産話を堪能しました。



特別賞の最年少参加選手
山下晴輝くん

日本テザー協会では、10月30日に2009年に同地で開催されたワールドを記念した「和歌山メモリアルレガッタ」を開催予定。そして、イギリスからコンテナで送った艇を11月12日に受け取って、11月19～20日に葉山で全日本選手権大会を予定しています。

和歌山ワールドメモリアルレガッタ

2009年に和歌山で開催された「テザー級世界選手権」を記念して開催されることになった「テザーワールドメモリアルレガッタ」2回目の開催となる今年は、10月29、30日に和歌山セーリングセンターで行われました。（文・写真／日本テザー協会）

初日、北東の軽風の吹きはじめを待って行われた1レース目は、スタート直後から風が北寄りへシフトして、2上レグではほとんどポートの1本コースとなった中、左の片振れをいち早く掴んだ池田・秋吉組がトップフィニッシュ。続いて多田・割石組、石川・泉組が2、3位で入り、大阪北港フリートの1・2・3フィニッシュとなりました。

第2レースは平均5ノットの微・軽風コンディションの中、コースは第1レースと比べると長めに設定されました。不安定なコンディションで約1時間のレースになったにもかかわらず、トップからラストフィニッシュまでがわずか3分という大接戦となり、参加艇は少ないもののレースのレベルの高さを実感するレースとなりました。マークを回航する度に順位が変動する中、多田・割石組がトップフィニッシュ。僅差で石川・泉組が2位、地元和歌浦の蜂須賀・水落組が3位と続きました。

2日目は、小雨が降る中、東寄りの風、4～7ノットの風で3レース行われました。第3レース、トップを走る石川・泉組をフィニッシュ直前でかわし、多田・割石組がトップフィニッシュ、2位石川・泉組に続いて追いつけてきた岡本・小澤組が3位でフィニッシュ。

第4レースは2日目から参加の田中夫妻組が1上から終始トップを守り、フィニッシュ。リコールを解消してスタートした石川・泉組が2位、多田・割石組が3位。

第5レースは風上マークを回航したところで風がなくなってしまい、サイドマークまでのコース短縮となりましたが、岡本・小澤組が地元の強みをみせてトップフィニッシュ。その後多田・割石組、石川・泉組と続きました。



和歌山テザーワールドメモリアル出場者一同

総合成績は、軽風を得意とする多田・割石組が圧倒的な強さを見せて優勝。昨年の山本・安澤組に続いてスーパーグランドマスタークラスのペアが優勝を飾りました。2位には全レース、多田・割石組とは1点差だった石川・泉組、3位は全5レースの消化によって第4レースのDNSを切り捨てられた岡本・小澤組が入賞しました。

今回で第2回となった「テザーワールドメモリアルレガッタ」ですが、参加艇数は8艇と少ないものの、9月のイギリスワールド参加チームも2組参加して、とてもレベルの高いレースでした。

開会式で山本テザー協会会長が「1つの定例レガッタとして定着するにはまだ数年かかる」と言われましたが、来年以降もこのきれいな海でのレースを楽しめるよう、地元近畿フリートを中心に、さらに多くのテザーセーラーに参加していただいで盛り上げていきたいと思ひます。

全日本選手権

11月19、20日、神奈川県葉山港で「テザー級全日本選手権」が開催された。大会初日は朝から風速13メートル以上。その日、最大風速25メートル以上を記録し、爆風の前に初日は全レース延期となった。（レポート・写真／日本テザー協会）

今回のエントリーは30艇。この数年の中では最小数だが、元JSAFナショナルチーム、昨年度モス級全日本チャンプの後藤浩紀、日大OBで、関東ミドルボートでも活躍する〈アドニス〉のヘルムスマン紙聡、同じく日大OBで、〈祖国丸〉(J/24)のトリマーとして昨年全日本タイトルを取った小林正季、やはり日大OBで470やマッチレース、〈ブロス〉などのキールボートで活躍中の山田真といった名だたる面々の新規参入が特徴的だ。関東圏外からは、関西から3艇、浜名湖から2艇遠征してきた。



前日の強風の影響が残り、葉山沖は軽風にもかかわらず高いうねり。写真はボートスタートを狙う後藤・村木組

2日目は一転して無風に。海上は、夜半まで吹き続けた爆風が作ったうねりが強烈で、20~30メートル横にいるテザーのマストトップが隠れるほど。ダウンウインドのサーフィングは豪快だが、クローズドホールドでは、うねりの山と谷で見かけの風の変化が非常に大きい。

そんなむずかしいコンディションの第1レースをリードしたのは、2009年和歌山ワールド3位、この9月にイギリス・トーベイで開催されたワールドでも5位に入賞した佐藤・村岸組（江の島）。スタートから飛び出し、2位以下とのリードをどんどん広げる。第1風上マークを上位で回航したグループには、冒頭で紹介した新規参入組が含まれた。

次第に風が弱まり、後半はさらにうねりとの困難な戦いを強いられたこのレース。佐藤・村岸組が大きなリードを保ったままトップフィニッシュ。2位に、2007年史上唯一の女性ヘルムとして全日本タイトルを取った軽部夫妻組（稲毛）。そして、この数年で、すっかり日本のエースの仲間入りした山村・池田組（稲毛）が3位に入った。

第1レース終了後、大きなうねりのみが残る、無風のコンディションが葉山沖を再び覆った。風待ちに入ると、辛いのは選手より運営陣。用意されたお弁当に手をのばす者はなく、船酔いと戦いとなった。

第2レースは、大きく下有利となってしまったスタートライン。リミットマークからポートタックでスタートして、全艇の前を切ったのは後藤・村木組だ。そのアドバンテージを生かして、3位でフィニッシュ。2位に葉山開催のレガッタとの相性が良い、石塚・白岩組（浜名湖）。一方で、手痛いミスを行ったのが、第1レース2位の軽部夫妻組。ランニングのレグで、うねりにバウを突っ込んでしまい、痛恨の沈。大きく遅れてしまった。1位でフィニッシュしたのは、レース中盤までトップを他艇に譲るものの、最後はやはり佐藤・村岸組。1-1位で完全優勝を決めた。



完全優勝を果たした佐藤・村岸組。目指すは、再来年アメリカ・ゴージで開催されるワールドでのてっぺん！

終わってみれば、佐藤・村岸組の圧勝だった。クルーの村岸は、仕事のため初日は参加できず。初日にレースが実施されていれば、おそらくありえなかった優勝で、天候をも味方につけた勝利だ。他艇種も含め、長年2人で活動しているが、全日本のタイトルは初めて。9月に村岸が、そして10月に佐藤が誕生日を迎えたことでマスタークラス（乗員合計年齢80歳以上）の仲間入りし、ダブルタイトルとなった。

グランドマスタークラス（乗員合計年齢100歳以上）優勝は、石塚・白岩組。「みなさんに迷惑かけないように、先日健康診断を受けてきた」という安原（昭和元年生まれ）と戸田のペアはスーパーグランドマスタークラス（乗員合計年齢120歳以上）で優勝を果たした。

ジュリーを務めた大村雅一 JSAF ルール委員会副委員長が、「チンや失敗しても、みなさん暗くなったりせず、前向きに、とても楽しそうにレースしているのが印象的だった」と語るように、楽しい雰囲気にも包まれるテザー級のレガッタ。新規参入組も、熱い戦いと、あたたかいもてなしを、大いに楽しんでくれたようだ。

日本テザー協会では、数あるレガッタの中でも、ホスピタリティーに特に定評のあるミッドウインターレガッタを、2012年2月19日稲毛に予定している。



テザー全日本参加者集合

ミッドウインターレガッタ

2月19日、冬の寒空の下、毎年恒例のテザー級ミッドウインターが、稲毛ヨットハーバーで開催された。昨年より参加艇数は増え、地元稲毛から7艇、葉山から3艇、江の島から3艇、そして関東圏外からは大阪北港から1艇、芦屋から1艇、浜名湖から1艇が遠征。合計16艇の参加を得て開催された。（レポート・写真／日本テザー協会）



今年は16艇が千葉県稲毛に集まった

レース前日は、練習会が開催され、昨年のミッドウインターレガッタ、スプリングレガッタを制した池田選手（稲毛）が講師。今回は、クルーワークをテーマに、陸上で艇に乗り込んで解説し、参加者間でディスカッションを行った。タックの動作ひとつをとっても、各チームにはそれぞれの工夫があり、テザー歴20年になるベテラン勢にとっても、“目からウロコが落ちる”発見があった。



レース前日におこなわれた池田選手による講習会

その後、海上練習となったが、徐々に風速が上がり、一部の艇は出艇するも、10メートルのオーバーの風（最大15メートル）になった結果、出艇禁止となり、練習自体は短時間で終了した。その後は、中

華料理屋に場所を移動。この場だけの参加者も加え、総勢 40 名ほどで大いに盛り上がった。

レース当日は打って変わって、レース日和の風(3~5メートル)となり、予定していた4レースが順調に行われた。風向は北西~西で、安定とは程遠いシフティーな海面。そんな中、上位争いを演じたのは、昨年の全日本で優勝をおさめた佐藤/村岸(江の島)、地元稲毛の3チーム、田中/田中、軽部/軽部、山村/河合だった。山村は、いつもとはポジションを入れ換え、池田をヘルムスとして出場予定だったが、池田は風邪でダウン。急きょ女性レーザセーラーの河合をピンチクルーとして出場することとなった。

上位4チームが4位までを独占するレースが続き、3レースが終わった時点で、佐藤/村岸が6点、軽部/軽部が7点、田中/田中が9点と、優勝争いは最終レースに持ち越された。軽部夫妻が、佐藤/村岸を逆転するには、最終レースを3位以上でフィニッシュし、かつ佐藤/村岸より前でフィニッシュする必要がある。しかし、軽部夫妻は痛恨のリコール。大きく出遅れる。

佐藤/村岸は右寄りの風を使ってシフトに合わせ、田中/田中は左サイドに大きく伸ばす展開。わずかなリードで田中/田中(稲毛)が1上をトップでまわる。田中夫妻が、佐藤/村岸を逆転するには、1位フィニッシュが必須条件だ。さらに、間に1艇以上入れる必要がある。リコールを解消してスタートした軽部/軽部も驚異の追い上げを見せるが、3位でフィニッシュ。田中夫妻は最終レースをトップで終えるが、総合得点では佐藤/村岸が逃げ切り優勝が決まった。

結果、上位3艇が1点差、2位と3位は同点という、とても激しい優勝争いとなった。シフティーな軽風コンディションだったが、上位陣の安定した走りが印象的なレースであった。

5位には、第3レースで3位とトップ争いを演じた中村/高松(葉山)。中村の経歴は西南学院高校、同志社大学と、ヨット界のエリートコース。テーザーのヘルムスマンとしてはデビュー戦となったが、今後の活躍が大きく期待される。

マスタークラス(乗員合計年齢80歳以上)の優勝は、昨年秋に仲間入りしたばかりの佐藤/村岸(江の島)でダブルタイトル。グランドマスタークラス(乗員合計年齢100歳以上)の優勝は、浜名湖より遠征の蜂須賀/新井。

そして、スーパーグランドマスタークラス(乗員合計年齢120歳以上)の優勝は、大阪北港より遠征してきた池田/小澤。池田/小澤は金曜日の夜より前入りし、前日の練習会でも強風の中積極的に出艇、総合でも6位と大きな活躍を見せた。

大西レース委員長の「上位艇とそれ以外の艇でのレベル差があり、そこを埋めていくのが今後のテーザークラスの課題」というように、上位4艇がレースを終始リードしたが、ワールドイヤーでもなく、かつ2月の寒い時期に16艇が集まり、和気あいあいとした雰囲気の中、たいへん盛り上がった大会だった。



優勝は昨年度全日本覇者、佐藤/村岸

2011テザーズプリングレガッタ

4月30日～5月1日 於:葉山

Entry No	SailNo	Skiper	Crew	Fleet	Class	第1レース			第2レース			第3レース			第4レース			第5レース			第6レース			第7レース			合計	CUT	NET	順位
						着順	反則	得点	着順	反則	得点	着順	反則	得点	着順	反則	得点	着順	反則	得点	着順	反則	得点	着順	反則	得点				
1	3	2736	山村 太郎	池田 陽平	稲毛		1		3																4	0	4	1		
2	1	2862	佐藤 浩章	村岸 恭明	江ノ島		5		5		1														6	0	6	2		
3	11	2709	野嶋 嘉昭	石井 浩一郎	葉山	M	2		2		5														7	0	7	3		
4	5	2768	久礼 嘉伸	杉本 啓伍	葉山		4		4		7														11	0	11	4		
5	6	2707	石塚 恒志	白岩 道孝	浜名湖	GM	10		10		2														12	0	12	5		
6	2	2593	亀山 寛達	井上 敦	稲毛		6		6		6														12	0	12	6		
7	17	2720	下村 晃司	片山 達彦	芦屋		3		3		10														13	0	13	7		
8	16	2615	田口 裕介	山下 朝子	葉山	M	7		7		8														15	0	15	8		
9	13	2749	野口 優	杉田 智宏	江ノ島	M	12		12		4														16	0	16	9		
10	7	2671	小林 昌弥	武田 崇宏	葉山		8		8		9														17	0	17	10		
11	12	2715	外石 満	小松 利英	葉山		9		9		13														22	0	22	11		
12	4	2745	関口 真秀	加藤 洋	江ノ島		11		11		12														23	0	23	12		
13	14	2748	石原 裕二	伊浪 雅人	葉山		15		15		11														26	0	26	13		
14	9	2621	山下 栄輝	山下 晴輝	葉山		14		14		14														28	0	28	14		
15	8	2761	小松 充	小松 俊介	葉山		13		13		17														30	0	30	15		
16	10	2675	安原 実郎	戸田 隆久	葉山	SGM	16		16		16														32	0	32	16		
17	15	2708	金子 直樹	山村 育弘	葉山	M	DNF		18		15														33	0	33	17		

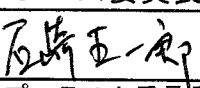
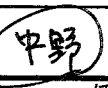
NO RACE

レース委員長

第22回テーザ一級西日本大会 種目別得点集計表

最終成績

実施日	平成23年7月10日
会場	兵庫県立海洋体育館
種目	テーザ一級

レース委員長 
プロテスト委員長 

低得点方式

No.	セール番号	選手名/所属等	参加区分	第1レース			第2レース			第3レース			最終成績	
				着順	順位	得点	着順	順位	得点	着順	順位	得点	得点合計	総合順位
1	2867	秋吉寿美子/河野信司	大阪北港 M	2	2	2	3	3	3	3	3	3	8	1
2	2736	山村太郎/池田陽平	稲毛	8	8	8	1	1	1	1	1	1	10	2
3	2719	石川光輝/泉 香月	大阪北港	1	1	1	4	4	4	5	5	5	10	3
4	2866	渡辺克充/関口真秀	芦屋	3	3	3	6	6	6	2	2	2	11	4
5	2653	多田幸男/臼杵辰朗	大阪北港 SGM	7	7	7	5	5	5	7	7	7	19	5
6	2555	小澤拓身/岡本憲二	米所島/和歌浦 GM	5	5	5	11	11	11	4	4	4	20	6
7	2705	植田泰平/抜井康樹	芦屋 M	4	4	4	2	2	2	OCS	OCS	15	21	7
8	2861	吉田敬一/岸本辰也	大阪北港 GM	10	10	10	8	8	8	6	6	6	24	8
9	2534	岩出彰・蜂須賀弘美	米所島/和歌浦 GM	11	11	11	7	7	7	8	8	8	26	9
10	2738	三輪記裕/中山弘幸	大阪北港	9	9	9	9	9	9	10	10	10	28	10
11	2707	石塚恒志/白岩道孝	浜名湖 GM	6	6	6	12	12	12	11	11	11	29	11
12	2208	南屋恵美子/長義晴	芦屋	12	12	12	10	10	10	9	9	9	31	12
13	2764	中西英貴/佐藤和紀	芦屋	13	13	13	13	13	13	12	12	12	38	13
14	2660	掛川 宏/児島克博	芦屋	14	14	14	14	14	14	13	13	13	41	14
スタート時刻				10日 11:06:00	10日 12:30:00	10日 13:48:00								
先頭艇フィニッシュ時刻				10日 11:54:07	10日 13:09:50	10日 14:26:42								
レース終了時刻				10日 12:02:41	10日 13:15:06	10日 14:28:33								
コース				1-2-3-1-3	1-2-3-1-3	1-2-3-1-3								
天候				晴れ	晴れ	晴れ								
風向				230°	230°	230°								
風速				3.5m/s	4.0m/s	5.0m/s								



2011年テザ-ワールド*メモリアルレガッタ



和歌山セーリングセンター 2011年10月29日-10月30日

順位	NO.	セール No.	セール No.	スキッパー 氏名	クルー 氏名	クラス	フリート /水域	第1レース			第2レース			第3レース			第4レース			第5レース			捨レース	総合	
								着順	順位	得点	着順	順位	得点	着順	順位	得点	着順	順位	得点	着順	順位	得点		削除 得点	得点
1	1	2653	2653	多田 幸男	割石 じゅんこ	SGM	大阪北港	2	2	2	1	1	1	1	1	1	3	3	3	2	2	2	3	6	1
2	2	2719	2719	石川 光輝	泉 香月		大阪北港	3	3	3	2	2	2	2	2	2	2	2	3	3	3	3	9	2	
3	3	2555	2555	岡本 憲二	小澤 拓身	GM	未所属/和歌浦	4	4	4	6	6	6	3	3	3	DNS	DNS	9	1	1	1	9	14	3
4	4	2867	2867	池田 俊則	秋吉 寿美子	GM	大阪北港	1	1	1	5	5	5	4	4	4	6	6	6	6	6	6	6	16	4
5	1	2534	2534	蜂須賀 弘美	水落 信一	M	未所属/和歌浦	6	6	6	3	3	3	8	8	8	4	4	4	5	5	5	8	18	5
6	2	2866	2866	田中 郁也	田中 紀子	M	稲毛	DNC	DNC	9	DNC	DNC	9	5	5	5	1	1	1	4	4	4	9	19	6
7	3	239	239	山本 晴之	山本 玲子	M	葉山	5	5	5	4	4	4	7	7	7	5	5	5	8	8	8	8	21	7
8	4	2205	2205	亀山 寛達	井上 彰		稲毛	7	7	7	7	7	7	6	6	6	7	7	7	7	7	7	7	27	8

Date	29-Oct-11	29-Oct-11	30-Oct-11	30-Oct-11	30-Nov-11
Starting time	13:51:00	14:36:00	10:03:00	11:03:00	12:05:00
Finishing time	14:18:17	1:37:27	10:46:46	11:51:14	12:31:58
Race end time	14:20:43	15:40:28	10:52:20	11:53:05	12:39:39
Wind direction	40 °	350 °	70 °	70 °	60 °
Wind speed	4.0 kt	5.0 kt	7.0 kt	7.0 kt	4.0 kt

レース委員長署名

2011年度テザー級全日本選手権

2011年 11月 19日(土) ~ 11月 20日(日)
 葉山港(神奈川県三浦郡葉山町堀内50))
 主催: 日本テザー協会

Rank	SailNo	BoatName	Skipper	Crew	Fleet Area	Class	Race #1			Race #2			Race #3			Race #4			Race #5			Race #6			Total Point
							Order	Comment	Point	Order	Comment	Point	Order	Comment	Point	Order	Comment	Point	Order	Comment	Point	Order	Comment	Point	
1	2862		佐藤 浩章	村岸 恭明	江ノ島	M	1		1	1		1												2	
2	2707		石塚 恒氏	白岩 道孝	浜名湖	GM	5		5	2		2												7	
3	2712		下村 晃司	河野 恭子	芦屋	M	4		4	4		4												8	
4	2736	都	山村 太郎	池田 陽平	稲毛		3		3	6		6												9	
5	2765	Kai Ona	田中 郁也	田中 紀子	稲毛	M	7		7	5		5												12	
6	2768	Megaptera	紙 聡	渡辺 さおり	葉山		6		6	9		9												15	
7	2761		後藤 浩紀	村木 昇			14		14	3		3												17	
8	2615	Tiki	田口 裕介	山下 朝子	葉山	M	10		10	7		7												17	
9	2593		亀山 寛達	井上 敦	稲毛		13		13	8		8												21	
10	2396	DYC	山本 晴之	山本 玲子	葉山	M	9		9	13		13												22	
11	2671	Sakura	阪井 祐介	小林 昌弥	久礼 嘉伸	葉山	8		8	17		17												25	
12	2745	Destino	関口 真秀	加藤 洋	江ノ島		11		11	15		15												26	
13	2572		軽部 竜也	軽部 香	稲毛		2		2	26		26												28	
14	2738		三輪 記裕	森藤 孝志	大阪北港		16		16	14		14												30	
15	2807	未確認	山田 真	鈴木 奈津希			20		20	11		11												31	
16	2716		小林 正季	小林 桃代	葉山		22		22	10		10												32	
17	2867	Suu	池田 俊則	秋吉 寿美子	大阪北港	GM	12		12	21		21												33	
18	2706	flying flip-flop	石丸 寿美子	東島 和幸	葉山	GM	15		15	18		18												33	
19	2749	Enosima WildBoar	野口 優	杉田 智宏	江ノ島		23		23	12		12												35	
20	2621	FattyCat	山下 栄輝	山下 陽子	葉山	M	19		19	20		20												39	
21	2715		小松 利英	中村 賢一	葉山		17		17	24		24												41	
22	2866	String Ensemble	渡辺 克充	登尾 早苗	芦屋		18		18	23		23												41	
23	2708		高松 慎吾	永尾 岳志	葉山		26		26	19		19												45	
24	2809		蜂須賀 強	大場 健介	浜名湖	M	24		24	22		22												46	
25	2709	09Magic	野嶋 嘉昭	米本 隆	葉山			OCS	31	16		16												47	
26	2675		安原 実郎	戸田 勝久	葉山	SGM	21		21	28		28												49	
27	2808	Martian Kitty	石川 洋二	山崎 真一	葉山	GM	25		25	29		29												54	
28	2748		石原 裕二	伊浪 雅人	葉山		27		27	27		27												54	
29	2205		片山 達彦	浦上 貴紘	稲毛			DNF	31	25		25												56	
30	2652	Dombei	山分 信	田口 公一	江ノ島	SGM		DNS	31		DNC	31												62	

No Race

2011年度テザーミッドウインター成績表

2012年2月19日 稲毛ヨットハーバー

順位	セールNo.	クラス	スキッパー	クルー 1・2	フリート	race1		race2		race3		race4		合計	修正
						着順	得点	着順	得点	着順	得点	着順	得点		
1	2862	M	佐藤 浩章	村岸 恭明	江ノ島	3	3	2	2	1	1	2	2	8	5
2	2765	M	田中 郁也	田中 紀子	稲毛	1	1	4	4	4	4	1	1	10	6
3	2572		軽部 竜也	軽部 香	稲毛	4	4	1	1	2	2	3	3	10	6
4	2736		山村 太郎	河合 潤	稲毛	2	2	3	3	6	6	4	4	15	9
5	2715		中村 賢一	高松 慎吾	葉山	10	10	6	6	3	3	8	8	27	17
6	2867	SGM	池田 俊則	小澤 拓身	大阪北港	7	7	9	9	5	5	5	5	26	17
7	2712		下村 晃司	片山 達彦	稲毛	5	5	5	5	9	9	7	7	26	17
8	2866		渡辺 克充	登尾 早苗	芦屋	12	12	7	7	7	7	9	9	35	23
9	2593		亀山 寛達	井上 敦	稲毛	8	8	8	8	8	8	12	12	36	24
10	2605	GM	蜂須賀 強	新井 実	浜名湖	6	6	10	10	10	10	13	13	39	26
11	2745		関口 真秀	加藤 洋	江ノ島	11	11	13	13	11	11	6	6	41	28
12	2749	M	野口 優	杉田 智宏	江ノ島	9	9	12	12	12	12	10	10	43	31
13	2808	GM	石川 洋二	宮下 知之	葉山	13	13	14	14	15	15	11	11	53	38
14	2881	GM	金子 文雄	芳野 紀良	稲毛	14	14	11	11	13	13	16	16	54	38
15	2675		山崎 真一	齋藤 智子	葉山	15	15	16	16	14	14	15	15	60	44
16	2893	GM	本間 博一	千葉 育夫	稲毛	16	16	15	15	16	16	14	14	61	45